

ほっとで ホッと ほっと

館林邑楽相談支援センターほっとは、平成27年4月に館林市総合福祉センターの2階に移転し、2年半が経過しました。四季で移り変わる窓の外の景色を見ながら、日々業務に向かっています。

ほっとには平成28年度現在、約650人の相談者があり、所属する相談員9名、療育相談員1名で相談者への支援をさせていただいております。

私たちの仕事は、身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がい、難病の認定を受けている方や、はつきりとした



診断名が出ているわけではないものの、生活をする上での悩みやお困りごとなどの相談を受けて、様々な関係機関と連携を図りながら、福祉制度のご案内や、社会参加の情報提供、調整役を担っています。



現在、障害福祉サービスを利用される方については、サービス利用者支援する為の計画(サービズ等利用計画)の作成が求められており、ご利用者やご家族の同意を得た上で、ご利用者のニーズに基づいたサービズ等利用計画の作成を行っています。

相談者に寄り添い、より本人の望む形に近い生活を一緒に考え、形作るお手伝いをするのみでなく、相談者にとって暮らしやすい地域を作っていく事も役割の一つであると考えていま

す。

生活をする中で困った事があった時や、どうしたらいいか分からなくなってしまう時、私たち相談員の事を頭で思い浮かべ、「とりあえず、あの人に聞いてみよう」と気軽に何でも相談出来るような存在になれていけばいいなあと、日々業務を行う中で感じていた事です。

私たち相談員は、多種多様な相談を聞きながら、相談者と一緒に、現在とこれからの未来の事を考えています。「もし白目のだるまがあるならば、相談者自身に塗ってもらおう。私たちが筆に手を添える事は代弁者としての役割としてあったとしても、勝手に黒く塗る事があってはならない。」年度初めのセンター会議でセンター長から言われた言

葉です。

相談者の持つ希望や望んでいる暮らし、夢、悩み、言葉にならない気持ちを汲み取りながら、自己決定、自己実現のお手伝いをしていきます。相談者の願いを込めて、自らの人生、自らで描いて欲しい。

私たちはこれからも、白目のだるまの目を自身の力で黒く塗る事が出来るように、関係機関と連携を図りながら、私たちの立場で出来る事を精一杯やっていきたいと思っています。



相談支援専門員
勤続4年 杉戸 由香里